

# 令和2年 東京都人口動態統計年報 (確定数) のあらし

## 1 出生

### 出生数は2.1%減少

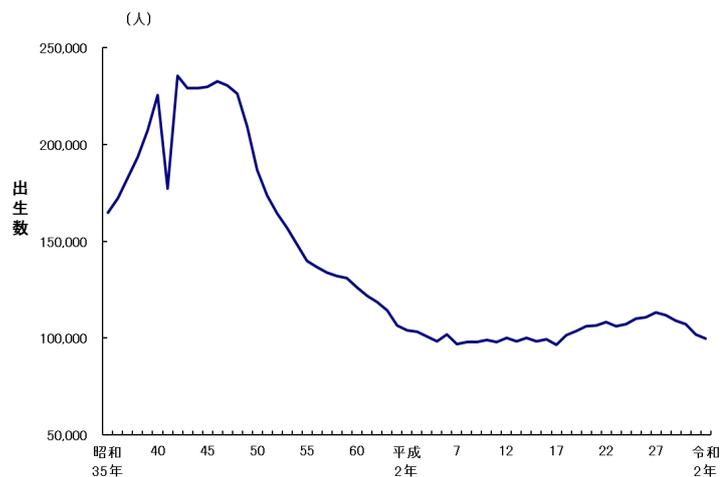
令和2年の出生数は99,661人で、前年の101,818人より2,157人(2.1%)減少した。人口千人あたりの出生数を表す「出生率」は7.4で前年の7.6より低下した。

【人口動態統計年報(以下「年報」という。)第1表】

全国の出生率は6.8で、前年の7.0より低下した。

【年報第5表】

図1 出生数の年次推移(東京都)



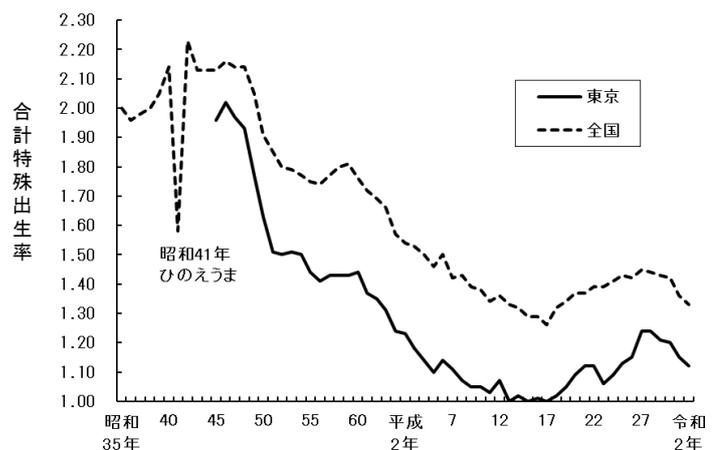
### 合計特殊出生率は0.03ポイント低下

令和2年の合計特殊出生率<sup>※</sup>は1.12で、前年の1.15より0.03ポイント低下した。(年報「調査の概要」の「6 利用上の注意」を参照)

【年報第3表】

区市町村別にみると、区部での最高は中央区(1.43)、最低は豊島区(0.91)、市部での最高は武蔵村山市(1.37)、最低は多摩市(1.06)、町村部での最高は三宅村(2.07)、最低は利島村(-)だった。(別表参照)

図2 合計特殊出生率の年次推移



注 昭和44年までは、東京都の継続した数値はない

※ 合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

1人の女性が仮にその年の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

なお、算出に用いた出生数の15歳及び49歳には、それぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

## 15歳から44歳までの階級で出生数が減少

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15歳から44歳までの階級で前年より減少した。

【年報第6表】

平成10年からは25～29歳に代わって、30～34歳の出生数が最多となり、更に、平成21年からは35～39歳の出生数が25～29歳の出生数を上回っている。

また、30歳代の出生数は5年連続減少し、40歳代の出生数も4年連続減少した。一方、全国と東京都の出生割合を比較すると東京都の30歳代及び40歳代の出生割合が高くなっている。

（表1）

図3 母の年齢別出生数の年次推移（東京都）

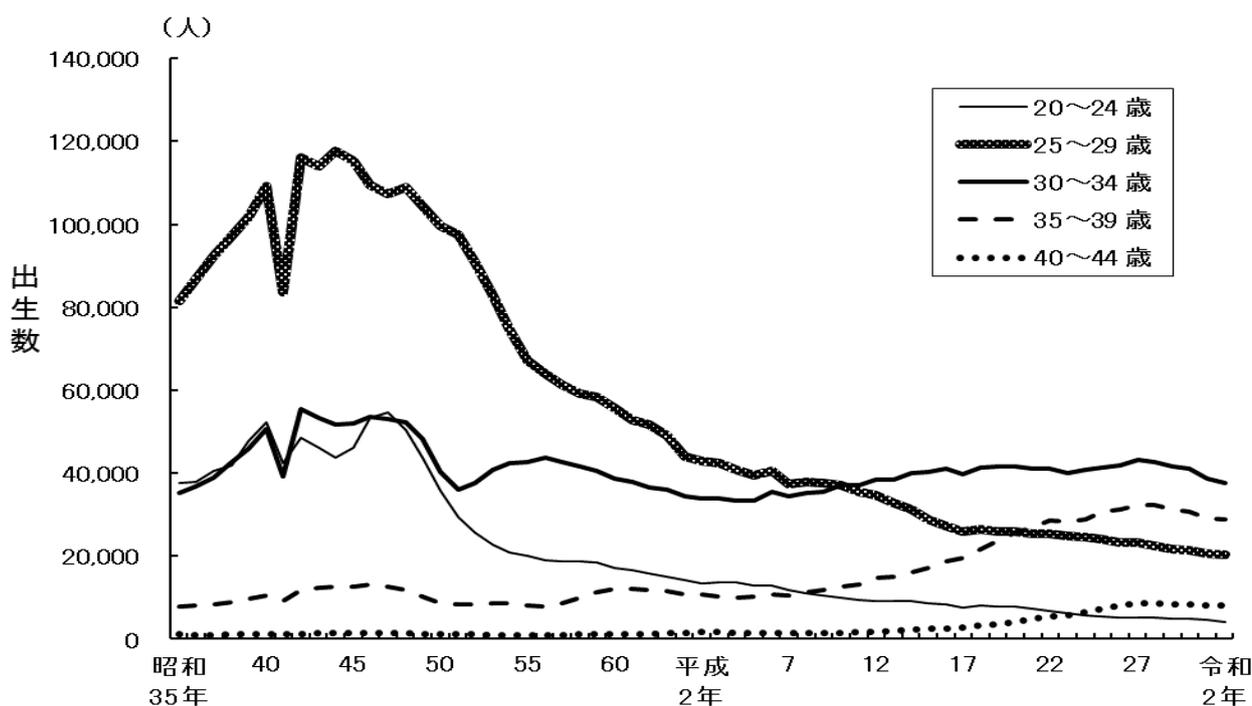


表1 母の年齢別出生数、総数に対する割合

母の年齢	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
	出生数（人）								
全国	37	6,911	66,751	217,804	303,436	196,321	47,899	1,624	52
東京都	5	406	4,128	20,344	37,649	28,750	8,049	316	14
	総数に対する構成割合（％）								
	※小数第三位まで表示								
全国	0.004	0.822	7.939	25.903	36.087	23.348	5.697	0.193	0.006
東京都	0.005	0.407	4.142	20.413	37.777	28.848	8.076	0.317	0.014

全国・・・「令和2年(2020)人口動態統計（確定数）の概況」第4表－(1)（厚生労働省）

## 2 死 亡

### 死亡数は0.3%増加

令和2年の死亡数は121,219人で、前年の120,870人より349人(0.3%)増加した。人口千人あたりの死亡数を表す「死亡率」は9.0で、前年と同値となった。

#### 【年報第1表】

全国の死亡率は11.1で、東京都の方が低い値となっている。

地域別に死亡率をみると、区部は8.7で東京都全体(9.0)より低くなっている。

一方、市部は9.4、郡部は18.2、島部は16.5で東京都全体(9.0)より高くなっている。

#### 【年報第4表】

また、乳児死亡数(生後1年未満の死亡)は135人で、前年の146人より11人(7.5%)減少した。出生千人あたりの乳児死亡数を表す「乳児死亡率」は1.4で、前年と同値となった。新生児死亡数(生後4週未満の死亡)は61人で前年の59人より2人(3.4%)増加した。出生千人あたりの新生児死亡数を表す「新生児死亡率」は0.6で、前年と同値となった。【年報第1表】

### 死因別死亡数は「悪性新生物<腫瘍>」が第一位

死因別にみると、死因順位の第一位は昭和52年以降連続で「悪性新生物<腫瘍>」である。「悪性新生物<腫瘍>」による死亡者数は34,219人(28.2%)で、前年の34,082人より137人(0.4%)増加した。

第二位は「心疾患」(15.1%)、第三位は「老衰」(9.6%)、第四位は「脳血管疾患」(7.2%)、第五位は「肺炎」(5.4%)となっている。

#### 【年報第8表】【年報第9表】

全国も上記の順位は東京都と同じである。【年報第8表】

図4 死亡数の年次推移(東京都)

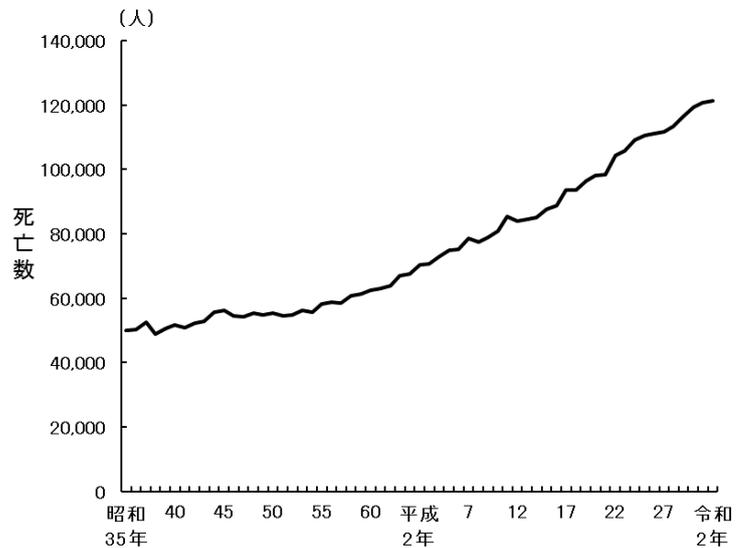
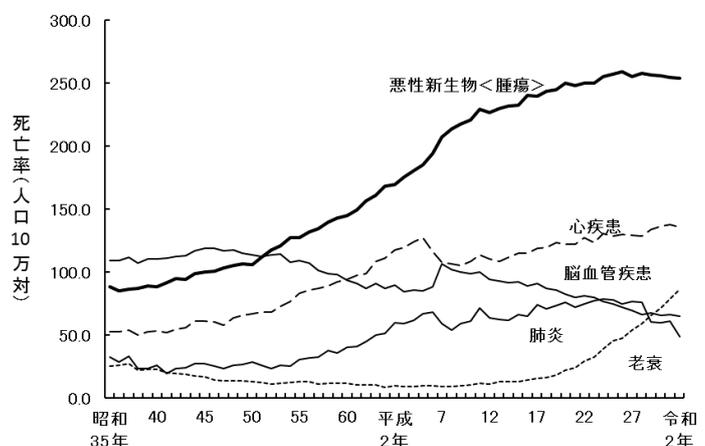


図5 主要死因別死亡率の年次推移(東京都)



### 3 自然増減

#### 自然増減は5年連続減少

令和2年の自然増減<sup>\*</sup>数は△21,558人で、5年連続の自然減となった(前年は△19,052人、前々年は△12,103人、3年前は△7,463人、4年前は△1,451人)。

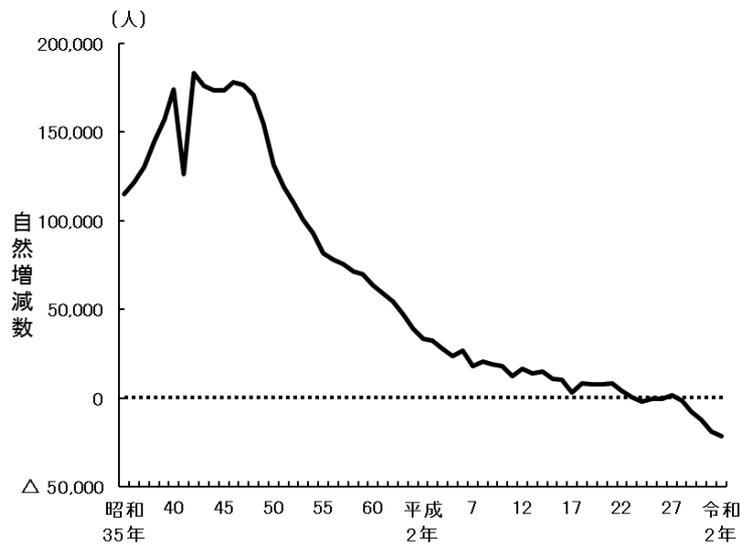
また、人口千人あたりの自然増減数を表す「自然増減率」は△1.6で、前年の△1.4より低下した。

【年報第1表】

※ 自然増減

出生数から死亡数を減じたもの

図6 自然増減数の年次推移(東京都)



### 4 死産

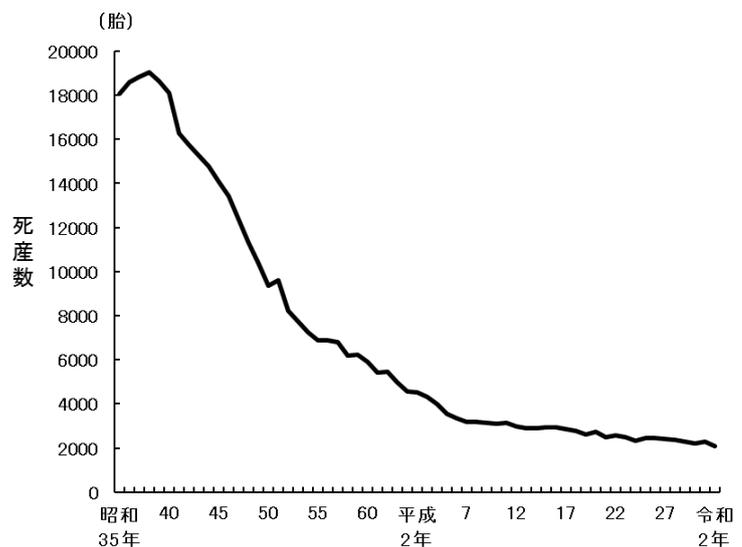
#### 死産数は減少

令和2年の死産数は2,076胎で、前年の2,303胎より227胎(9.9%)減少した。

また、出産千人あたりの死産児数を表す「死産率」は20.4で、前年の22.1より低下した。

【年報第1表】

図7 死産数の年次推移(東京都)



## 5 婚姻

### 婚姻件数は減少

令和2年の婚姻件数は73,931組で、前年の86,059組より12,128組(14.1%)減少した。

人口千人あたりの婚姻件数を表す「婚姻率」は5.5で、前年の6.4より低下した。

#### 【年報第1表】

全国の婚姻率は4.3で、東京都の方が高い値となっている。

地域別にみると、区部は6.2で東京都全体(5.5)より高く、市部は3.8、郡部は2.5、島部は3.9で東京都全体より低くなっている。

#### 【年報第4表】

東京都の平均初婚年齢は夫32.1歳(全国夫31.0歳)、妻30.4歳(全国妻29.4歳)で、夫・妻とも全国で最も高い。(表2)

図8 婚姻件数の年次推移(東京都)

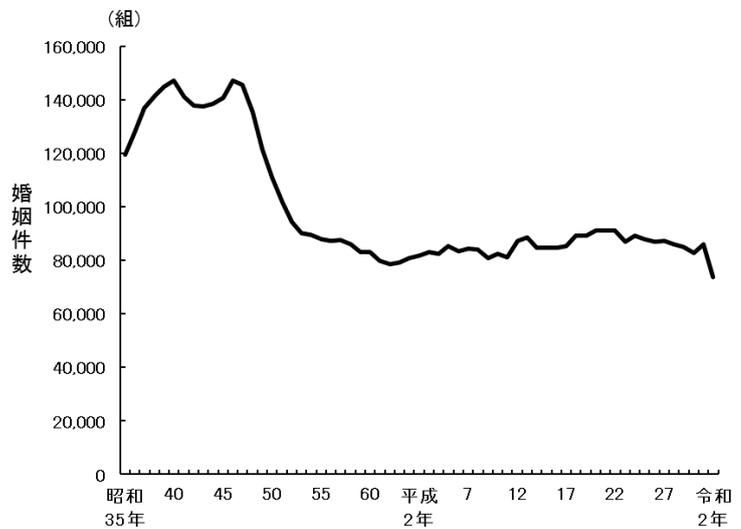


表2 平均初婚年齢、東京都と全国の比較

	令和元年		令和2年	
	夫	妻	夫	妻
全国	31.2	29.6	31.0	29.4
東京都	32.3	30.5	32.1	30.4

出典:「令和2年(2020)人口動態統計(確定数)」婚姻 第9-12表(厚生労働省)

## 6 離婚

### 離婚件数は減少

令和2年の離婚件数は20,783組で、前年の22,707組より1,924組(8.5%)減少した。

人口千人あたりの離婚数を表す「離婚率」は1.54で、前年の1.69より低下した。【年報第1表】

全国の離婚率は1.57で、東京都の方が低い値となっている。

地域別にみると、区部と郡部は1.61、島部は2.40で東京都全体(1.54)より高く、市部は1.39で東京都全体より低くなっている。

#### 【年報第4表】

図9 離婚件数の年次推移(東京都)

